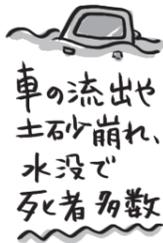


# 車は防水じゃない。冠水にご用心

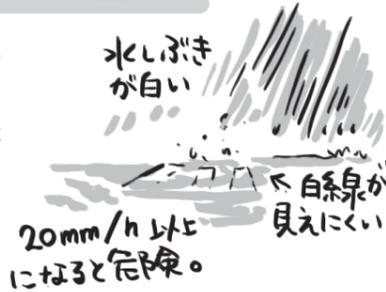
## 車は危険がいっぱい

濡れないし、頑丈だし、いろいろ積めるからと、つい避難に車を使ってしまいがちですが、渋滞して身動きが取れないうちに高潮や土石流、急な水位の上昇などで亡くなる方も少なくありません。車での直前避難は危険が伴うため、慎重に選択しましょう。



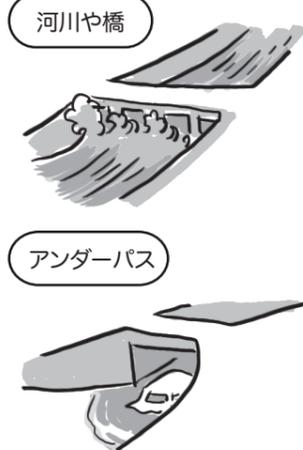
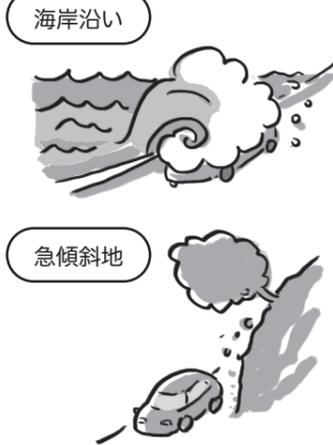
## 一気に冠水する雨量は？

大雨の時、道路に跳ねる水しぶきが白見えたり、路面の白線や横断歩道などが見えにくくなる状態は、道路が冠水する恐れがあります。



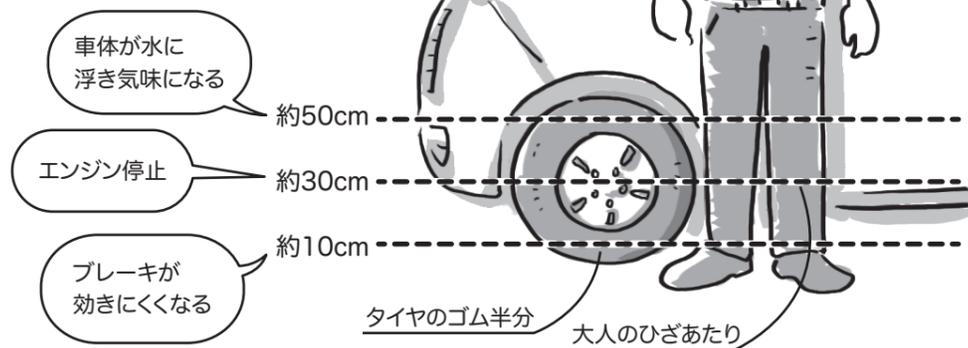
## 近づいてはダメ

海岸沿い、急傾斜地、橋や川、アンダーパスなどは、基本的に避けて通りましょう。



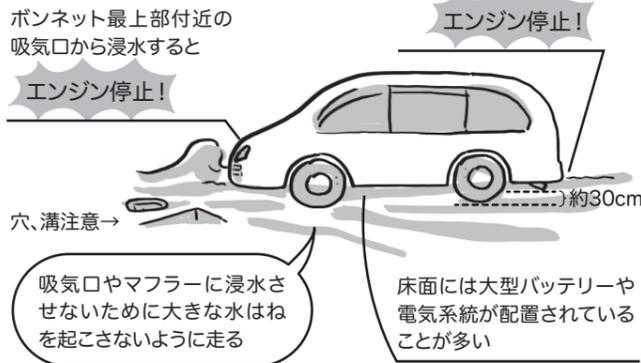
## たった10センチでも危険

空気の入ったタイヤは、車が浮きやすくなるため、10cmでも影響が出て来ます。深さ20cmで歩行自体が困難になるため、早めの避難が大切です。



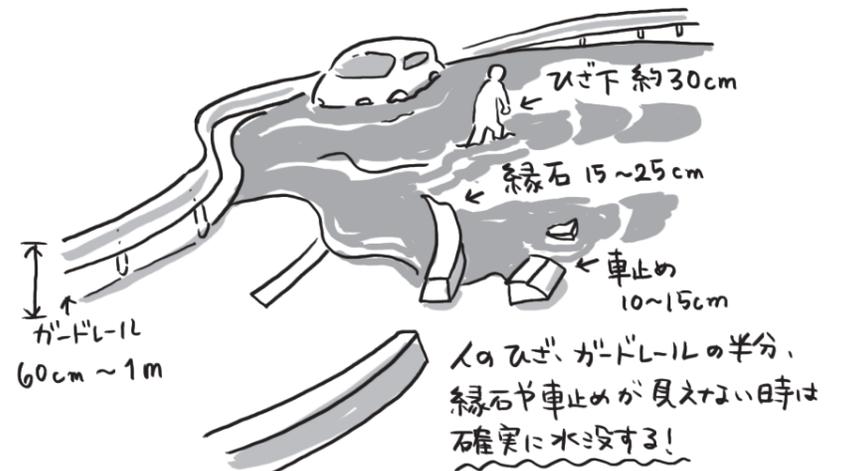
## 浅いから大丈夫、というわけではない

たいして水深がないように見えても、侵入の仕方ではエンジンが止まってしまうこともあります。また、マンホールが外れていたり、水の中に障害物があるなどの危険を予測できないので、安易な進入は危険です。



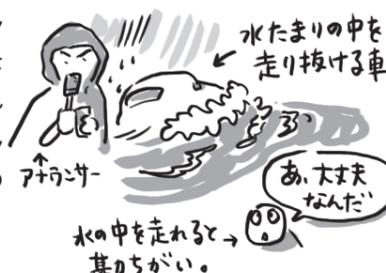
## 周囲のもので判断する

いつもの道も急に水位が上がると、どこまで深くなっているか判断がつかません。そもそも、入らないことが望ましいですが、進入する前に、周囲のもので水の深さをある程度判断できるようにしておきましょう。



## 映すの、やめませんか

よくテレビなどの映像で水しぶきをあげて走り抜ける車を報道していますが、「あ、あれなら行けるんだ」と勘違いしてしまいそう。報道関係の方、実は危険な行為である、と注意喚起をしてください。



## そもそも、迷惑

進入したときに発生する波で、家の中にさらに浸水を招いてしまいます。実際にシャッターが破損した事例も。また避難している人が頭から水をかぶったり、つまづく原因などになります。



## 通勤路など、調べておこう、「見える化」しよう

通勤路など、よく通る場所は事前に確認したり、自分なりの判断基準を設けておきましょう。また、自治会などで協力して独自の対策や看板などを設置する工夫をしてみてください。



※看板などの設置は事前に法律や条約の確認を。  
[https://www.mlit.go.jp/road/bosai/doro\\_bosaijoho\\_webmap/](https://www.mlit.go.jp/road/bosai/doro_bosaijoho_webmap/)



## 車は早くあきらめる

移動中に危険を感じた場合は、すぐに避難しましょう。あきらめが肝心。



## 車と要配慮者は早めにひなん

災害が発生してしまっからの避難や車の移動は非常に危険を伴います。ならば、お年寄りなど、要配慮者が避難する時に、車も高台に避難させてしまいましょう。効率的でどちらも安心です。

